

N E X T 商店街プロジェクト



所沢市の取組



2020年3月26日
所沢市商業観光課

対象地域



④狭山ヶ丘駅周辺
(和ヶ原商店街)

③新所沢駅周辺
(新所沢東口駅前)

②航空公園駅周辺
(パークタウン商店街)

商店街の概要

商店街数: 4 ①うらトコ通り ②パークタウン商店街 ③新所沢東口駅前商店会 ④和ヶ原商店街

会員数: 約150 ①約10 ②約30 ③約75 ④約35

概要: ①創業間もない若い飲食店主を中心に通りの活性化に向けて平成30年に活動を始める。
②UR団地の1階テナントで組織。公官庁や防衛医大と隣接しており土業や医療業も加盟。
③新所沢駅東ロー帯の3ブロックが集まった商店会。
④昭和50年頃は「埼玉のアメ横」と呼ばれるほど賑わった商店街。



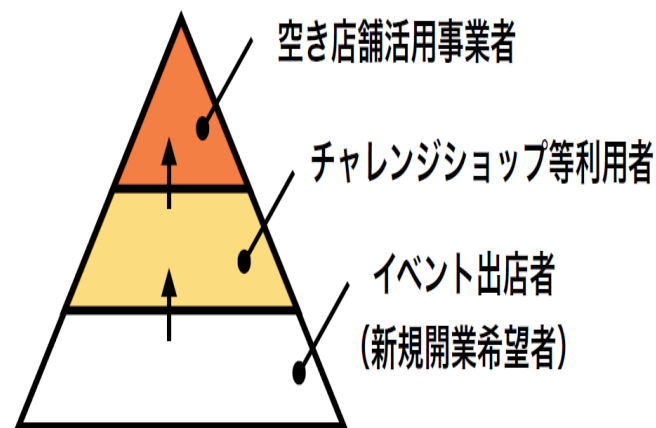
①所沢駅周辺
(うらトコ通り)

課題

- ・店主の高齢化、後継者不在などにより、時代に合わせた商店街活動の変化が難しい。
- ・エリアによっては空き店舗が増加している。
- ・高い市民意識を持った市民を商店街活動に活かす機会が少ない。

対応方針

- ・実践活動組織（ローカルファースト事業団：市内有志事業者が参加するまちづくり団体）を核とする地域連携等により商店街エリアでの活動を活性化させる。
- ・出店希望者の発掘・誘致と段階的な成長・定着支援の仕組みづくりを行う。
- ・地域住民等に多様な参加・応援機会を提供する。



空き店舗活用等の担い手のネットワーク形成・裾野の拡大

取組

①オープンマーケットの開催

商店街と地域活動組織（ローカルファースト事業団等）が連携して創業希望者等が出店できるマーケットを開催。

- ・和ヶ原：5/25,10/19（女性起業家団体と連携）
- ・所沢：1月と2月の第3週土日（フリマ企画）
- ・航空公園：2/15（起業支援団体と連携）



②チャレンジショップの開設

常設店へのステップとして和ヶ原商店街で半年間チャレンジ出店できる施設を開設。

- ・第1期出店期間：令和元年8月～半年間
- ・応募事業者数：2事業者
- ・審査会：商店会長他、女性起業家団体代表等
住民参加型で実施
- ・採択事業者：リラクゼーションマッサージ



取組

③ まちづくりワークショップの開催

商店街の活性化や空き店舗活用のプランを検討するワークショップを開催。空き店舗の活用策（オーナーに検討対象物件として提供いただき活用案を提案）などのアイデアを取りまとめた。

- ・開催日：6月～月1回土曜日（全5回）
- ・参加者数：各回10～15名程度
- ・活用検討物件数：4物件
- ・内容：街歩き、空き店舗見学、
街ゼミ講座アイデア出し、
公共空間の活用アイデア出し
空き店舗の活用アイデア出し



和ヶ原商店街の歴史や資源を知り、地域の新たな魅力の発掘やまちへの関わり方を楽しみながら考えよう！

コーディネーター：桑田仁（芝浦工業大学教授・都市プランニング研究室）

【参加資格】和ヶ原商店街の活性化や空き店舗の活用などに興味のある方
【募集人数】20名（先着順）

【参加費用】無料

※開催日時・会場は都合により変更する場合があります。



効果(KPI)

①オープンマーケットの開催数

目標 4件 → 実績 4件

②新規出店希望者数

目標 30人 → 実績 49人

③支援・協力者数

目標 80人 → 実績 95人

④商店会等の地元組織への新規加入者数

目標 4店舗 → 実績 13店舗

⑤空き店舗等を活用した常設的な新規出店

目標 7店舗 → 実績 7店舗

効果(定性的)

① 連携による既存商店会の活性化

毎年、前年踏襲の事業のみ実施している商店街にとっては、地域活動団体と連携して事業を実施したことにより、新たなアイデアや価値観がインプットされ、新たな協力体制も構築された。

② 段階的支援の仕組みの実証

オープンマーケットからチャレンジショップへの仕組みを和ヶ原商店街でつくり、一連の流れで一つ実績を作れた（実証できた）。

③ 多様な商店街応援人材の発掘

和ヶ原まちづくりWSの参加者が商店街の特別会員となり、今後活用できるつながりとなった。



広めたい手法

① 既存商店街を地域活動団体が支援

イベント等の事業実績が豊富で地域に認められているが高齢化等で時代の変化への対応が難しい商店会に対して、地域ニーズに応えるイベント出店等のサービスを提供できる地域活動団体が、地域横断的に支援する。



② 商店街応援団の結成

和ヶ原商店街のまちづくりWSに集まったメンバーが商店街の特別会員となり、今後、様々な活動の際に声を掛けられるゆるやかな体制を築いた。今まで商店街になかった視点やスキルの流入が期待できる。



自走に向けた課題

① 事務局機能の整備

既存商店街と連携してエリアを活性化していく主体として一昨年度から活動を開始しているローカルファースト事業団を支援し自走化を促しているが、事務局を整備することが課題である。

② 既存商店街の理解

ローカルファースト事業団等の新たな活動の効果や仮説について、既存商店街に十分理解を得られず、連携しきれないことがある。わかりやすく伝わる取組や表現方法の検討や十分な対話が必要。

